

地域・社会とのかかわり

文化活動の振興

ニッタグループは、和歌山県海南市の公益財団法人琴ノ浦温山荘園(当社創業者の新田長次郎が造園:2010年に国指定名勝)の維持管理を支援することで、地域社会の発展と文化財保存に寄与しています。また、同園が開催している各種イベント(「雛祭り」「夏祭り」等)に協賛することによって、地域における文化的活動に貢献しています。



地域への奉仕(清掃活動・工場緑地の開放)

行政や近隣の地域に協力した「クリーン作戦」「ゴミ拾い」等の周辺清掃活動を、本支店や各工場で毎年継続して行っています。年々ゴミの量は減っているように見えても、死角になる場所では大型ゴミが廃棄されています。今後も清掃活動を積極的に推進し、地域社会の周辺美化に貢献いたします。また、当社グループの工場緑地を近隣の保育園等へ開放する取り組みや、本社社屋を津波避難ビルとして登録する等地域社会に貢献できるよう努めています。



献血・骨髄バンクドナー登録への協力

ニッタグループでは、多くの社員が定期的な献血と併せて骨髄バンクのドナー登録の推進に協力しています。ドナー候補者に必要なコーディネートや事前の健康診断を実施する他、採取時の入院等に対しては「ドナー休暇制度」として有給休暇を付与しています。また、ドナー休暇取得中の社員の業務に対して、上司をはじめとする職場の理解やサポートが得られることで、既に複数の社員が骨髄提供を経験しています。



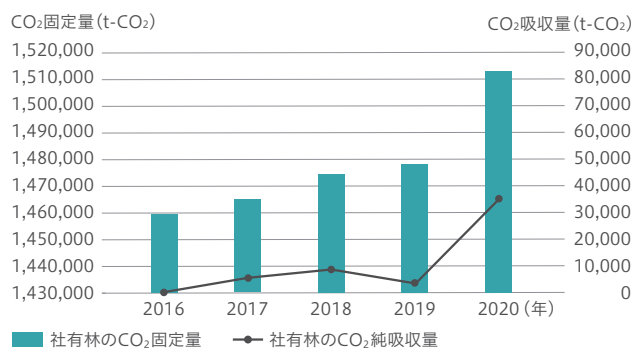
森林資源の維持・保全による地球環境問題への貢献

ニッタ株式会社は1906年に榎(かしわ)の樹を求めて北海道十勝地方へ進出し、以来100年以上にわたり、育苗・植林・間伐・伐採等の森林事業を行って参りました。当時と変わらず今も「森林を通じた社会貢献」を大切にしています。

地球温暖化対策への貢献

当社は、北海道十勝地区に約6,700haの社有林を保有しています。森林には公益的機能があり、中でも、近年特に注目されているのが、CO₂吸収・固定による地球温暖化の防止効果です。2020年度(2021年3月末)の当社社有林全体のCO₂固定量はおよそ1,512,954t-CO₂(※1)、純吸収量は34,976t-CO₂(※2)と試算しています。

▼当社社有林全体のCO₂固定量



※1 CO₂固定量(t-CO₂)=2020年度末材積量×樹種ごとのバイオマス拡大係数×樹種ごとの容積密度×炭素含有率×CO₂換算係数
 ※2 CO₂純吸収量(t-CO₂)=2020年度末CO₂固定量-2019年度末CO₂固定量

次世代に向けた取り組み

当社は、森林事業の一環として植林に必要な苗木の生産を行っています。苗木生産農家の減少が著しい中、北海道地区における苗木の安定供給と効率的な苗木生産を行なうことで地域に貢献して参ります。

また、次世代に向けた取り組みとしてクリーンラーチ(いわゆるエリートツリー)の採種園を造成しました。この樹木は一般の樹木より著しく成長が早く、建築材としての需要だけではなく、将来のCO₂吸収源として期待が高まっています。

本格的な苗木の生産までにはまだ十数年を要しますが、地道な活動を続けて参ります。



クリーンラーチ(エリートツリー)の採種園

地域とのコミュニケーション

社有林が存在する北海道では、森林と人との関係を主体的に考えることができる人材を育成しようと、北海道独自の「木育」という活動に力を入れていて、各方面で活動を行っています。そこで当社でも、地域との関係を強いものにする方策の一環としてその木育活動に協力し、独自の施策を実行し、ここ数年で行った具体的な活動は以下の通りです。

以下の活動のほか、地域の方々が森林に対して興味を持って貰えるような活動を、関係各方面と協力しながら数多く行っています。今後も引き続き積極的な活動を展開し、一人でも多くの地域の方々が森林をメインとした自然環境に興味を持っていただけるよう、鋭意努力して参ります。

植林・枝打ち研修場の協力

製材や建築に携わるボランティアによる植林や枝打ち研修に提供



アイヌ団体への樹皮提供

先住民族であるアイヌの方々が祭祀で着用する衣装の原料として用いられる樹木の皮を提供



若手林業就業者の勉強の場を提供

北海道が主催する現地研修に社有林を提供



北海道の研究協力

北海道が研究する新しい技術の試験研究地として社有林を提供



軽労化試験の協力

軽労化対策として造林協会が取り組む機械化の現地試験用に社有地を提供



地元小学校での社会科授業

社会科授業の一環として、森林管理教育の実施

